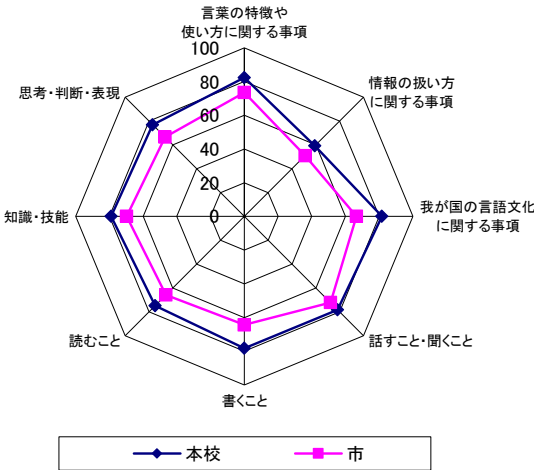


宇都宮市立昭和小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.4	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	59.2	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	81.6	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	78.2	72.3	73.7
	書くこと	78.2	64.3	66.6
	読むこと	74.8	65.8	64.9
観点別	知識・技能	79.0	69.8	70.8
	思考・判断・表現	76.9	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

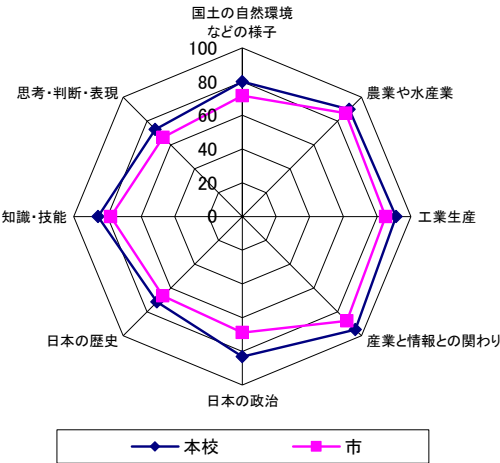
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	・本校の平均正答率は、82.4%と市の平均を8.9ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きについては、どの問題も正答率が高く、全ての問題で市の平均を上回った。 ●「文と文の接続の関係を理解している」や「敬語について理解し、正しく使っている」をねらいとした問題では、市の平均を上回っているが、正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・普段からの漢字の学習を習慣的に行うとともに、作文や日記等で日常的に漢字を使って書く機会を増やしていくことで、漢字の読み書きを十分に身に付けられるようにする。 ・文のつながりを意識し、理解しやすい文章が書けるように適宜指導する。 ・敬語についての理解を深め、場面に応じた言葉遣いを意識させながら、相手や場面にふさわしい適切な敬語を用いることができるよう指導の工夫をする。
情報の扱い方 に関する事項	・本校の平均正答率は、59.2%と市の平均を8.2ポイント上回っている。 ●「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている」をねらいとした問題では、59.2%と正答率が低い。 ○「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している」をねらいとした問題では、59.2%と市の平均を8.5ポイント上回っている。	・国語の学習以外でも、情報と情報との関係を意識させたり、文章の情報を整理して文章を書く学習を取り入れたりする。 ・今後も、目的をもって文章を簡単に書く機会を設け、簡潔に伝えるために必要な情報を読み取り、目的に合わせて自分の考えを書く学習を積極的に取り入れていく。
我が国の言語文化 に関する事項	・本校の平均正答率は、81.6%と市の平均を15.1ポイント上回っている。 ○「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している」をねらいとした問題では、正答率が81.6%と市の平均を15.1ポイントと大きく上回っている。	・和語、漢語、外来語の区別についてはおおむね身に付いている。引き続き、言語学習の際に、和語、漢語、外来語の区別をしたり、漢字の学習の際に、音読み、訓読みについて復習したりする機会を設ける。
話すこと・聞くこと	・本校の平均正答率は、78.2%と市の平均を5.9ポイント上回っている。 ○意図に応じた質問の工夫を選択する問題では、85.7%と高い正答率となり、市の平均を8.7ポイント上回った。 ○インタビューを聞いて話の内容を捉える問題では、正答率が98.0%と正答率が高かった。	・ペア活動やグループ活動で、伝え方や話し方の工夫を意識して、学び合いができるようにする。 ・相手の発言の意図を正しく捉えるとともに、話の要点を掴み、自分の言葉で表現直す活動を取り入れることで、論理的な思考を育む。
書くこと	・本校の平均正答率は、78.2%と市の平均を13.9ポイント上回っている。 ○文章を書く問題では、91.8%が指定された長さで文章を書くことができおり、100%が自分の意見とその理由を明確にして書くことができている。 ●「予想される反論とそれに対する意見を書いている」をねらいとする問題では、61.2%と市の平均を上回っているものの、正答率が低かった。	・自分の考えが伝わるように、理由も踏まえて書く力がおおむね身に付いている。 ・日頃から自分の考えだけでなく、様々な考えがあることを想定し、反論に対する自分の主張を書けるような指導を行う必要がある。
読むこと	・本校の平均正答率は、74.8%と市の平均を9ポイント上回っている。 ○物語文の内容を読み取る問題では、正答率が市の平均を大きく上回っている。 ●説明文の内容を読み取る問題では、正答率が市の平均を上回っているものの、正答率が低い。	・物語の内容を読み取る力が、よく身に付いている。引き続き、情景描写や心情を表す叙述に注目させ、物語の全体を理解できるように指導を行う。 ・説明文で、段落ごとに重要な語句を見つけ、短文にまとめる学習をすることで、要旨をとらえることができるようにし、それによって、まとまりごとの情報や関連を整理したり、関係性を理解したりできるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	80.0	71.6	69.6
	農業や水産業	89.8	86.7	83.7
	工業生産	91.2	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	94.9	87.7	77.4
	日本の政治	83.2	68.9	71.7
	日本の歴史	71.7	66.7	66.3
観点別	知識・技能	85.6	78.0	76.7
	思考・判断・表現	73.0	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

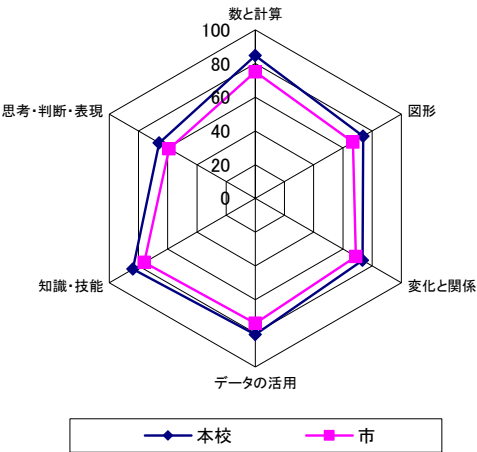
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・本校の平均正答率は80%で、市の平均を8.4ポイント上回っている。 ○日本周辺の海洋名について理解を問う問題では、正答率が95.9%と、市の平均を8.6ポイント上回っている。 ●国内の林業が抱える課題について考える問題では、市の平均を7.7ポイント上回っているものの、正答率は42.9%と低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国内の地理について理解を深めるため、白地図やICT教材などの視覚的資料を活用し、一層の定着を図る。 ・国内の産業が抱える課題について、総合的な学習の時間など教科横断的に扱うことにより、児童の日常生活と関連して考えることができるようにする。
農業や水産業	・本校の平均正答率は89.8%で、市の平均を3.1ポイント上回っている。 ○米の生産の工程について理解を問う問題では、正答率が91.8%と、市の平均を10.2ポイント上回っている。 ●水産物の流通の工夫について資料をもとに判断する問題では、正答率が83.7%と、市の平均を4.5ポイント下回っている。	・グラフや資料から自分の考えを見出したり、考えの根拠となる資料を選択したりするなどの学習を通して、社会的思考力を高めていく。 ・生産者と消費者の立場から資料を読み取ることを通して、水産資源を守ることが自分たちの生活とどのように関わってくるかを考えられるようにする。
工業生産	・本校の平均正答率は91.2%で、市の平均を6.2ポイント上回っている。 ○日本の工業の特色について資料をもとに表現する問題では、正答率が85.7%と、市の平均を12.3ポイント上回っている。	・工業生産の変化に対応できる柔軟な考えがもてるよう、児童の日常生活と関連して考えたり、話し合ったりする機会を設ける。 ・自動車の生産工程や流通などの様子はデジタル教材を活用して理解を深めてきた。今後も実際に見学に行ったり、デジタル教材を活用したりして興味・関心をもたせ、知識を定着させていく。
産業と情報との関わり	・本校の平均正答率は94.9%で、市の平均を7.2ポイント上回っている。 ○情報の発信と受信の注意点について考える問題では、正答率が89.8%と、市の平均を10.7ポイント上回っている。	・情報の伝え方とメディアの関連について触れ、情報伝達手段の多様さについて学習するとともに、教科横断的に様々な学習を通して、情報社会の有益性と危険性を十分理解できるようにする。
日本の政治	・本校の平均正答率は83.2%で、市の平均を14.3ポイント上回っている。 ○天皇の地位についての理解を問う問題では、正答率が77.6%と、市の平均を14.6ポイント上回っている。 ●内閣の働きについての理解を問う問題では、市の平均を24.9ポイント上回っているものの、正答率は67.3%とやや低い。	・政治は国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしているということを理解するため、各種資料から読み取ったことをもとに、考えたことを自分の言葉で記述する機会を増やしていく。 ・学習内容に関連したニュースや新聞などの話題を児童にも理解できるように紹介したり、資料を提示したりして、児童が興味をもって取り組めるような授業の展開を図っていく。
日本の歴史	・本校の平均正答率は73%で、市の平均を6.6ポイント上回っている。 ○大王についての理解を問う問題では、正答率が67.3%と、市の平均を16.8ポイント上回っている。 ●元との戦いについての理解をもとに防塁について表現する問題では、市の平均を4.2ポイント上回ったものの、正答率は32.7%と低い。	・日本のおおまかな歴史や先人の業績、文化遺産などを理解するために、一人一台端末のAIドリルを活用し、繰り返し知識の定着を図っていく。 ・授業で身に付けた知識をもとに、歴史的事象との関連や時代背景についてなど、児童が主体的に調べたりまとめたりする機会を繰り返し設け、理解を深めていく。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	84.7	75.1	75.8
	図形	73.9	66.8	68.3
	変化と関係	73.5	68.8	65.0
	データの活用	80.8	74.1	63.6
観点別	知識・技能	83.9	76.1	75.8
	思考・判断・表現	65.8	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



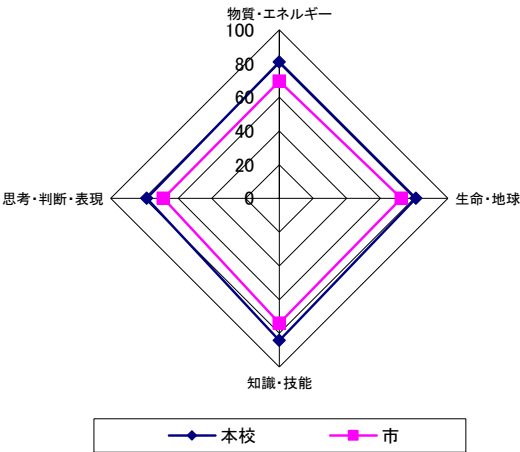
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・本校の平均正答率は84.7%で、市の平均を9.6ポイント上回った。 ○文字を使って、2つの数量の関係を1つの式に表す設問の正答率は85.7%で、市の平均を13.5ポイント上回った。 ○正答率が市の平均を下回っている設問は見られなかった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・少人数指導やドリル等での繰り返しの学習で、技能の定着が見られるため、今後はAドリル等も取り入れながら、繰り返し学習し、更なる定着を図っていく。 ・計算の仕方を理解した上で、反復練習に取り組むことができるよう、個に応じた指導の徹底を図る。
図形	・本校の平均正答率は73.9%で、市の平均を7.1ポイント上回った。 ○角柱の体積を求める設問の正答率は85.7%で、市の平均を16.6ポイント上回った。 ●線対称と点対称について理解し、既習の図形から線対称でも点対称でもある図形を選ぶ設問の正答率は34.7%であり、市の平均を4.7%下回った。	・図形の特徴や図形の決まりを理解している児童は多く見られるが、見方を変えたり考えたりして立式したり、線対称でも点対称でもある図形を選ぶ問題では、正答率が低いため、類似問題等で繰り返し学習し定着を図っていく。 ・図形の性質をもとに、作図の仕方を考えたり、説明したりできるように、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の徹底を図る。
変化と関係	・本校の平均正答率は73.5%で、市の平均を4.7ポイント上回った。 ○速さと道のりから、時間を求める設問の正答率は、85.7%で、市の平均を6.3ポイント上回った。 ○表から面積と数の割合を求め、どのにわとり小屋が最も混んでいるかを考察する設問の正答率は77.6%で、市の平均を4.2ポイント上回った。	・単位量あたりの大きさや速さの公式を確認し、問題に応じて使い分けができるよう、繰り返し学習し定着を図っていく。 ・基準量や比較量から割合をもとめる問題では、文章の中から、基準量や比較量に当たる数量を読み取ることができるよう、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の徹底を図る。
データの活用	・本校の平均正答率は80.8%で、市の平均を6.7ポイント上回った。 ○問題の場面を理解し、4日間に走った道のりの平均から、2週間に走ると考えられる道のりを求める設問の正答率は55.1%で、市の平均を13.5%上回った。	・記述式の問題では、自分の考えを具体的な数量を根拠に、文章にまとめていく活動を取り入れ、記述式問題に抵抗なく取り組めるように支援していく。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	81.0	69.5	65.2
	生命・地球	81.0	72.3	70.1
観点別	知識・技能	84.3	74.0	70.7
	思考・判断・表現	78.6	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・本校の平均正答率は、81.0%と市の平均を11.5ポイント上回っている。 ○ものの溶け方について、「実験における条件制御の誤りを指摘し、説明できる」をねらいとした問題では、73.5%と市の平均を20.8ポイントと大きく上回っている。	・今後も児童が興味をもてるような授業の展開を図るとともに、課題に対する予想、実験、結果、考察というそれぞれの活動で主体的に考えをもてるよう、言語活動を取り入れながら、科学的思考を養っていく。 ・実験の道具の使い方や流れ、方法などを繰り返し確認しながら実験するよう指導する。
生命・地球	・本校の平均正答率は、81.0%と市の平均を8.7ポイント上回っている。 ○「かん臓のはたらきについて理解している」をねらいとした問題では、79.6%と市の平均を18.1ポイント上回っている。 ●「実験から、和歌がよまれたときの月の形を推測する」をねらいとした問題では、正答率が市の平均を上回っているものの、38.8%と低い。	・十分に観察する時間を確保したり、デジタル教材を活用したりすることで、知識を身に付けられるようにしていく。 ・授業において、AIDリルを活用しながら学習内容を確認し、基本的な知識の定着を図っていく。

宇都宮市立昭和小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本定着のための「じっくりタイム」の実施	基礎・基本を確実に定着させるため、朝の学習時に学習ドリルやAI型個別学習ドリルを活用して繰り返し学習を行い、基礎的な学習内容の定着を図っている。	6年生は、全ての教科において、基礎問題の校内平均正答率が市の平均正答率を上回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	学力アップ月間を年2回設けている。「家庭学習の記録」や啓発資料を活用して、家庭との連携を図りながら、家庭学習の習慣化を図っている。	「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に対する肯定的回答の割合は1～3年生は90%以上だが、4～6年生では80%前後の結果となり、学年で差が見られた。自ら取り組む態度に関わる「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」に対する肯定的回答の割合は4年生で80.4%と市の平均を上回ったが、他学年は50～60%であった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

各学年ともにねらいを達成するために意欲的に学習に取り組む様子がうかがえる。家庭学習については、取組や学習時間に学年差、個人差が見られるので、年度始めに家庭学習の仕方について共通理解を図ったり、学力アップ月間をきっかけに家庭学習に進んで取り組んだりできるよう、家庭と連携しながら指導の充実を図りたい。

国・県・市の結果を踏まえ、当該学年の学習に関する指導だけではなく、単元の導入時に前学年までの関連事項の定着状況を把握し、必要に応じて復習をする機会を設けるようにする。

学年、発達段階に応じて、文章の構成や言葉の選択などを意識した書く活動を取り入れていく。また、まとめやふり返りの場面で、設定されたキーワードを使って文章を書いたり、児童のふり返りを紹介したりして、書く活動を充実させていく。